MAZDA SOCIAL CONTRIBUTION REPORT 2022

マツダ社会貢献活動レポート 2022

編集方針

マツダが国内・海外で実施している社会貢献活動をご報告します。

報告対象

対象組織： マツダ株式会社およびグループ会社を含むマツダグループ全体について報告。
対象期間： 2021年4月から2022年3月（各グループ会社・財団の決算期ベース）

CONTENTS

3 **取り組み基本方針**

活動レポート

環境

6	地域と連携した緑化事業の推進	[日本] マツダ
7	地域の森林保全活動に協力	[日本] マツダ、マツダロジスティクス
9	アースアワーへの参加	[日本] マツダ、グループ会社、販売会社
10	スクールバックプロジェクト	[南アフリカ] MSA、マツダ財団南アフリカ
11	プロジェクト・クリムゾン・トラストの支援	[ニュージーランド] MMNZ、マツダ財団ニュージーランド
13	動物園や保護センターの支援	[ニュージーランド] MMNZ

安全

14	シートベルト着用啓発	[日本] マツダ
15	交通安全啓発	[日本] マツダ、東海マツダ販売、函館マツダ、マツダオートザム梅林 他販売会社

人材育成

16	工場見学	[日本] マツダ
17	共創ゼミ	[日本] マツダ
18	就業支援	[日本・タイ] マツダ、東海マツダ販売 他販売会社、グループ会社、AAT
19	子どもたちへの学習支援	[日本・メキシコ・南アフリカ] マツダ、MMVO、MSA、マツダ財団南アフリカ、MTMUS

地域貢献

21	マツダスペシャリストバンク	[日本] マツダ
22	パレードカーの提供	[日本] マツダ
23	災害用備蓄食品の寄贈	[日本] マツダ
24	マツダ病院	[日本] マツダ
25	ウエス加工用布類の収集	[日本] マツダ、グループ会社
26	地域清掃活動	[日本] マツダ、グループ会社、神戸マツダ 他販売会社
27	ウクライナへの支援	[日本・欧州] マツダ、グループ会社、販売会社、MME、MMI、他各国拠点
28	アンケートを通した支援	[日本] マツダ、販売会社
31	フードドライブ	[日本] 南九州マツダ、千葉マツダ、アンフィニ広島、マツダオートザム市原北
32	スポーツ・文化の支援	[日本・メキシコ・オーストラリア・タイ] マツダ、甲信マツダ、広島マツダ 他販売会社、MMVO、MA、MST
34	折り鶴プロジェクト	[日本・カナダ・メキシコ・欧州・南アフリカ・オーストラリア・ニュージーランド・コロンビア・タイ・台湾] マツダ、MCI、MMVO、MLE、MSA、MA、MMNZ、MCOL、MST、MMT
36	サンタプロジェクトの支援	[日本・コロンビア] マツダ、マツダE&T、MCOL
37	支援型自動販売機の設置	[日本] マツダエース、マツダパーツ、神戸マツダ
38	地域の見守り活動	[日本] マツダ、マツダエース 他グループ会社、他販売会社
39	ウォールアート	[日本] 広島マツダ
40	新型コロナウイルス感染拡大に伴う支援活動	[アメリカ・カナダ・メキシコ・イタリア・タイ] MNAO、MCI、MMVO、MMT、MST、AAT
42	医療支援	[カナダ・オーストラリア] MCI、MA
43	マツダ駅伝大会の開催	[メキシコ] MMVO
44	トイドライブ	[メキシコ] MMVO
45	移民の支援	[メキシコ] MMVO
46	学校での安全プロジェクト・HIV/AIDS ケア施設の支援	[タイ] AAT

海外拠点の正式名称は、P5を参照ください。

社会貢献

取り組み基本方針

a

基本理念

グローバルにビジネスを展開しているマツダは、企業活動を通じて、持続可能な社会の実現に寄与するために、それぞれの地域のニーズに即した取り組みを継続的に行い、良き企業市民としての責任を果たしていきます。

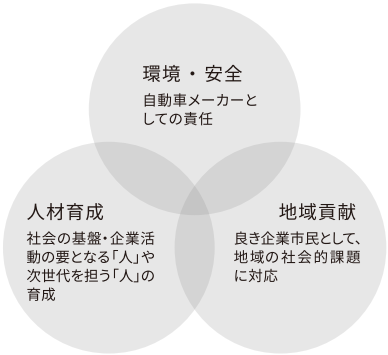
活動方針

- 国内・海外のマツダグループの本業を通して社会的課題に積極的・継続的に取り組む。
- 地域と協働し、それぞれの地域ニーズに即した活動を行い持続可能な社会の発展に貢献する。
- 従業員の自発的ボランティア活動を重視・支援する。多様な価値観を取り入れることで、柔軟性のあるイキイキとした企業風土の醸成を目指す。
- 活動内容を積極的に開示し、社会との対話に努める。

3つの柱

「環境・安全」「人材育成」「地域貢献」の3つを社会貢献活動の柱とし、地域に根ざした活動を推進していきます。

a 社会貢献 取り組み基本方針3つの柱



推進体制

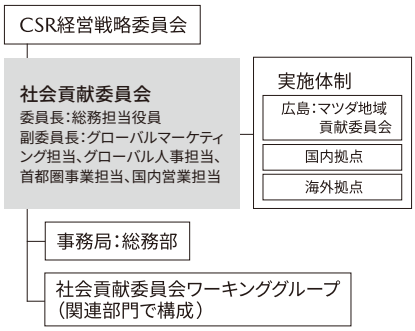
b

2010年5月に「社会貢献委員会」を設置し、CSR経営戦略委員会で決定した社会貢献に関する方針やCSR目標などに基づき、マツダグループ全体の課題を討議し情報を共有しています。
関連部門で構成するワーキンググループでは、具体的な活動内容を検討します。
2010年からの委員会活動を通じて、グローバルおよびグループ視点での情報収集・活用を継続的に強化しています。個々の活動の実施にあたっては、各拠点・各部門がそれぞれ予算化し対応しています※1。

2021年度の主な実績

- 国内・海外で、450件※2以上の活動を実施しました（社会貢献活動費 約25.8億円）。
- 社会貢献プログラム影響評価指標に基づいたマツダ社会貢献活動優秀賞を設立し、PDCAサイクルを継続しています。

b 推進体制図



社会貢献プログラム影響評価指標

社会の課題を解決するとともに、企業価値の向上に貢献するプログラムを評価・促進するため、2014年度より社会貢献プログラム影響評価指標を設定し、PDCAプロセスを構築しました。指標は「社会への影響」「会社への影響」「マツダらしさ」の3つの視点で設定し、評価しています（具体的には、「受益者の数」「従業員の参加数」「社会貢献3つの柱との整合」などの8項目で構成）。

※1 日本、米国、オーストラリア、ニュージーランド、南アフリカでは、別途マツダ財団を通じての活動を実施。
※2 社会貢献活動該当範囲：金銭寄付、現物寄付、施設開放、社員の参加・派遣、自主プログラム、自然災害被災地支援。

マツダ社会貢献活動優秀賞

C

優れた社会貢献活動に対する表彰制度「マツダ社会貢献活動優秀賞」を2015年1月に創設しました。この制度は、マツダグループで取り組んでいる活動をより多くの方に知っていただくとともに、社内外に喜ばれる活動がさらに増えていくことを目的としています。表彰対象は、社会貢献プログラム影響評価指標をふまえ、社会貢献委員会ワーキンググループメンバー、マツダ労働組合、およびマツダ労働組合連合会が連携して評価し、社会貢献委員会で選定します。受賞した活動に対しては、毎年1月、会社創立記念日にあわせて社長名の表彰状が贈られます。

- 第8回マツダ社会貢献活動優秀賞
  2021年度の表彰対象は、マツダ社会貢献活動レポート※1掲載の社会貢献活動（活動時期：2020年4月～2021年3月）の中から選ばれました。

C　第8回マツダ社会貢献活動優秀賞

	活動名
大賞	新型コロナウイルス感染拡大に伴う支援活動 ［マツダノースアメリカンオペレーションズ］
特別賞	オークランド動物園 ［マツダモータースオブニュージーランドLtd.］
特別賞	ブルーシード大作戦 ［千葉マツダ］
奨励賞	モノづくりを通した学習支援 ［マツダ］
奨励賞	フードドライブ ［千葉マツダ、マツダオートザム市原北］

従業員のボランティア活動支援

従業員がボランティア活動に積極的に取り組めるよう、支援を行っています。

- 活動する機会の提供（マツダスペシャリストバンク、マツダボランティアセンターなど）
- 活動する費用の一部補助（マツダ・フレックスベネフィットなど）
- 活動に伴う休暇の支援（ハートフル休暇制度に含まれるボランティア休暇など）
- ボランティア研修受講機会の提供

自然災害被災地支援

マツダグループでは被災地の復興を願ってさまざまな支援を行っています。地震や異常気象などが生じた際、マツダ本社と現地拠点が連携をとり、適切な支援を行っています。
支援事例：東日本大震災／平成29年7月九州北部豪雨／平成30年7月豪雨（西日本豪雨）／平成30年台風21号／平成30年北海道胆振東部地震／令和元年台風19号／令和2年7月豪雨災害（日本）、米国ハリケーン（米国）、メキシコ地震（メキシコ）、タイ南部洪水（タイ）など。

財団を通じた社会貢献

マツダおよびグループ会社は5カ国で財団を設立し、それぞれの地域に適した支援活動を促進しています。

国	財団名	支援内容／目的	設立年	2021年度 助成（寄付）金額
日本	マツダ財団 https://mzaidan.mazda.co.jp	科学技術の振興と青少年の健全育成	1984年	5,015万円
米国	マツダ財団USA https://www.mazdafoundation.org/	教育・環境保護・社会福祉・異文化交流の助成	1990年	47.5万米ドル
オーストラリア	マツダ財団 オーストラリア https://mazdafoundation.org.au/	教育・環境保護・科学技術振興の助成、社会福祉関連取り組みへの貢献	1990年	67.5万豪ドル
ニュージーランド	マツダ財団 ニュージーランド https://mazdafoundation.org.nz/	教育・環境保護・文化活動の助成	2005年	26.0万NZドル
南アフリカ	マツダ財団 南アフリカ https://www.mazda.co.za/mazda-foundation/foundation/	教育、キャリア開発、技術開発、環境保全などへの貢献	2017年	84.5万ランド

※1 https://www.mazda.com/ja/sustainability/social/library/

3つの柱に基づいた取り組み

「環境・安全」「人材育成」「地域貢献」の3つを社会貢献活動の柱とし、マツダが事業活動を行っているそれぞれの地域に根ざした活動を推進しています。

環境・安全

マツダのビジネスは地球温暖化やエネルギー・資源不足、交通事故などの社会的課題に関係／影響があります。これらの課題に対応するため、本業のみならず社会貢献活動においても「環境」「安全」の視点を大切にしています。

- 各種イベントでの環境啓発、環境教育のための講師派遣、生物多様性保全を含む各種環境保全ボランティア活動など
- イベントにおける交通安全に関する講演、安全運転講習の実施など

人材育成

人は社会や企業活動の要であり、次世代を担うとの考えの下、社会貢献活動においても「人材育成」の視点を大切にしています。

- モノづくりなどの専門知識や技能を生かした講義・講演
- インターンシップの実施、敷地内の施設を活用した自動車に関する学習支援など

地域貢献

ビジネスを展開している国・ 地域において、各地域社会が抱える固有の課題に対応するため「地域貢献」の活動を推進しています。

- 慈善団体への寄付や車両の寄贈、慈善活動への参加
- スポーツ・文化の振興など

海外拠点の正式名称

MNAO	マツダノースアメリカンオペレーションズ
MCI	マツダカナダ, Inc.
MMVO	マツダデメヒコビークルオペレーション
MLE	マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V.
MME	マツダモーターヨーロッパGmbH
MMI	マツダモーターイタリア, S.r.l.
MSA	マツダサザンアフリカ（Pty）Ltd.
MA	マツダオーストラリアPty. Ltd.
MMNZ	マツダモータースオブニュージーランドLtd.
MCOL	マツダデコロンビアS.A.S.
MST	マツダセールス（タイランド）Co., Ltd.
AAT	オートアライアンス（タイランド）Co., Ltd.
MMT	台湾マツダ汽車股份有限公司
MTMUS	マツダトヨタマニュファクチャリング USA, Inc.

トンボといつまでも触れ合えるように

地域と連携した緑化事業の推進

【日本】マツダ（株）

横浜市にあるマツダの研究開発拠点、マツダR&Dセンター横浜では、横浜市提唱の「京浜の森づくり」事業に賛同し、企業・大学・行政・市民の産学官民で構成する「トンボはドコまで飛ぶかフォーラム[*1]」のトンボ飛来調査を2004年から支援し、自然の再生・緑の拡充に取り組んでいます。

この調査では、トンボを指標にして「十分な緑地があり生物多様性（生態系）に配慮した緑地の質が保たれているか」の検証が行われます。

2021年度は、生息するトンボの種類が安定する夏に臨海工業地帯約10カ所で実施。マツダは8月に3日間調査に協力し（種1頭シオカラトンボ）が見つかり、産卵のための水場であることが確認出来ました。

調査員の目視や捕獲により、発見したトンボの種類、雌雄、状態、飛来状況、調査地点間の移動状況など記録後、羽根に記号を書いてリリースしています。

2009年にマツダR&Dセンター横浜の中庭にある人工池に、近隣に自生する水生植物を移植することで、水辺の生き物の生息環境に適したビオトープにしました。その結果、毎年一定数の種類と数のトンボが確認出できるようになった他、今ではアメンボなどの水中生物やカルガモなどの野鳥も飛来するようになりました。

専門家からは「京浜工業地帯でも企業の緑地が整備されると、こういう珍しいトンボが帰ってくるようになる」と高い評価を得ています。

近年特に環境問題が取り上げられる中、環境調査の場所を提供し捕獲活動に協力することで自然の再生・緑化事業の一役を担っています。

数字で見る実績

継続年数：**18** 年

*1　https://tomboforum.com/?page_id=12

自分たちの手で森を守ろう！

地域の森林保全活動に協力

【日本】マツダ（株）、マツダロジスティクス（株）

マツダは、広島県と山口県で地域の森林保全活動に協力しています。本社（広島）では、2010年に広島県と「森林保全・管理協定」を締結し、広島県緑化センター（広島市東区）内の「マツダの森」を中心に保全活動を行っています。

2021年度はマツダグループ従業員を中心にボランティア26名が参加。森林保全ボランティア団体の指導・協力のもと、森林保全に必要な除伐作業や来場者が快適に森の中を散策できるように遊歩道整備を実施しました。また、2010年に加入した「ひろしま森林（もり）づくりフォーラム」において、参加企業・団体などと連携し「企業の森づくり」を推進しています。

数字で見る実績

「マツダの森」継続年数：**11** 年

累計参加人数：**872** 名

防府工場では、山口県が実施する利水企業による「企業との協働による水源の森づくり」に2005年から、佐波川流域森づくりの会主催の「佐波川流域大平山ふれあいの森づくり」に2013年から従業員ボランティアで森林保全活動に参加*しています。

* 2021年度は、コロナ禍のため不参加

竹林整備ボランティア

自動車および部品運送を行うマツダロジスティクス（株）は、2009年から広島市の「ふれあい樹林事業」* で指定されている竹林の維持管理ボランティアを行っています。NPO法人もりメイト倶楽部Hiroshimaと連携しながら年1〜2回里山整備士の指導の下、古い竹などを間引きながら荒廃した近隣の里山の整備に取り組んでいます。

2021年度は、6名が参加し、地域の方々との交流を深めながら作業を行いました。参加した従業員からは「1年ぶりの参加で上手くできるか不安でしたが、インストラクターの方に指導いただき、のこぎりを扱うコツを思い出し順調に作業を進めることができた」「腕が筋肉痛になりましたが、作業が大変だった分、充実感や達成感があり、次回もぜひ参加したい」などの感想がありました。

* https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/138/7450.html

数字で見る実績

継続年数：**13** 年

累計参加人数：**214** 名

広島の森を育てる取り組みへ役立てよう

マツダは、命名権を取得した広島市民球場（MAZDA Zoom-Zoom スタジアム 広島）のナイター照明用として排出しているCO2約97トン（推定量）を、広島県の森林吸収量クレジット（広島県営林J-クレジット）で、オフセットしました。

この取り組みは、広島県の「広島県の森を育て、排出するCO2を吸収しよう」というカーボンオフセット（森林保全）の取り組みにマツダが賛同し、MAZDA Zoom-Zoom スタジアム 広島での活用を提案し、広島県、広島市、広島東洋カープが合意したことにより、2013年度から行っています。

https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/87/keneirinjversyutoku.html

数字で見る実績

継続年数：**9** 年

電気を消して地球環境を考えよう

アースアワーへの参加

【日本】マツダ（株）、グループ会社、販売会社

「EARTH HOUR（アースアワー）」は、2007年から始まったWWF（世界自然保護基金）が主催する世界中の人々が、同じ日・同じ時間帯（2021年度は3月26日 20:30〜）に電気を消して地球環境を考えるライトダウンイベントです。マツダは2010年からこの活動に参加し、2021年度はグループ会社含め国内700以上の施設で消灯を実施しました。

加えて、2018年より広島県、広島市、地元のNPO法人「Heart of Peace ひろしま」とマツダが協力し、広島市平和記念公園の親水護岸にて啓発イベントも実施しています。2021年度は、「EARTH HOUR」と「PEACE」の文字をキャンドルで点灯し、平和を願う子どもたちの絵も展示するなど、環境に加えて平和もアピールしました。

* 特定非営利活動法人「Heart of Peace ひろしま」
https://www.hiroshima-peace.com/

数字で見る実績

継続年数：**12** 年

ビルボードがバックに

スクールバックプロジェクト

【南アフリカ】マツダサザンアフリカ（Pty）Ltd.（MSA）、マツダ財団南アフリカ（MFSA）

生まれ変わったバッグやペンケースを必要とする人々の元へ

MSAは、マツダ財団南アフリカとともに、使用済のビルボードの素材を地元の小規模な生産者に寄付し、高品質でユニークなスクールバッグやペンケースにリサイクルしてもらい、児童・生徒の皆さんに届ける活動に取り組んでいます。

2021年度は、1,130㎡のビルボード素材を寄付し、南アフリカの農村部にあるNPO団体を通じて400個のスクールバッグを配布しました。

MSAは、南アフリカの若い世代に、リサイクルとサステイナビリティの意識を促進するこの取り組みを、大変誇りに思っています。取り組みはまた、地元の小規模企業への支援、雇用創出、更には、社会的、経済的に不利な状況にある人々の就職の機会やスキルアップにもつながっています。プロジェクトで残った素材については、他の企業のノベルティや記念品として転売できるよう寄付されています。

数字で見る実績

継続年数：3 年

固有種保護とCO2削減

プロジェクト・クリムゾン・トラストの支援

【ニュージーランド】マツダモータースオブニュージーランドLtd.（MMNZ）、マツダ財団ニュージーランド

体感することで思い出に残る学びに

MMNZは、2004年からニュージーランドの代表的な保護団体、プロジェクト・クリムゾン・トラストの活動の支援を行っています。

マツダ財団ニュージーランドは、同トラストと共同で「ツリーメンダス」プロジェクトに参加し、学校と協力して、屋外エリアを教育課程へ組み込む実践的な学習の開発支援をしています。

このプロジェクトは、学生が環境配慮や固有の動植物の大切さについて、自然の中で学ぶ事を目的に2008年から開始されました。

2021年度は、プロジェクトを少し変更し、150校の応募の中から選定された5校それぞれに、昆虫学者として名高いルード・クラインペースト博士と鮫科学者であるライリー・エリオット博士による学校訪問に加え、奨励金1,000ドルと校庭に植えるニュージーランドの自生樹木200本が贈られました。

クラインペースト博士とエリオット博士は、各学校を訪問し、環境の保全とその持続可能性に関する知識を子どもたちに授け、地球を大切にする大人となるように励ましました。

学校からは「生徒たちは、ライリーの授業に心を奪われていました。ルードの話のとりこにもなっていましたが、それは、ルード自身が環境保護に一生懸命だからというだけでなく、子どもたちに分かりやすい言葉で語りかけてくれたからで、彼の友達である昆虫も、授業を別次元の世界へといざなってくれていました」との感想が寄せられました。

数字で見る実績

継続年数：**14** 年

累計活動学校数：**58** 校

累計参加者数：**8,372** 名

販売後のクルマが排出するCO2削減に貢献

自生樹木の植林による環境保全

MMNZは、プロジェクト・クリムゾン・トラストが始めた「ツリーズ・ザット・カウント」の取り組みを2018年からしています。

ニュージーランドの自生樹木は、CO2を吸収し貯留するだけでなく、在来種の鳥の繁殖場所にもなり、河川や池などの水質を改善し、次世代の恵みへとつながる美しい場所を整えてくれます。この取り組みで植えられた全ての自生樹木は、生物多様性や気候変動といった私たちを取り巻く環境を回復、改善させる一助となっています。

「ツリーズ・ザット・カウント」では、金銭を寄付し木を寄贈したい人々と、環境の改善のために植樹をしたい人々や組織を結びつけ、植樹のお手伝いをしています。

MMNZが、お客様に代わり、クリスマスシーズンの贈り物として取り組み始めたこの活動は、2021年には、マツダの新車をご購入いただくごとに、5本の自生樹木を購入・寄贈するまでに発展し、2021年の暦年を通した木の寄贈は、36,765本となりました。

数字で見る実績

継続年数：**4** 年

累計樹木数：**111,765** 本

植樹を支援したエリア数：**249**

野生動物保護を推進

動物園や保護センターの支援

【ニュージーランド】マツダモータースオブニュージーランドLtd.（MMNZ）

野生動物を保護し、未来へと命をつなぐために

MMNZは、オークランド動物園*とのパートナー契約に基づき、2012年よりマツダ車を提供して同動物園を支援しています。

同動物園には、絶滅危惧種の動物たちを園内で繁殖させ、野生に戻すプログラムがあります。

現在提供しているMAZDA3 ハッチバック、CX-8、BT-50の3台は、スタッフによる野生動物の保護活動や、動物たちを国内の他の地域へと移動させることを含めた日々の業務で活躍しています。

また、MMNZは、地域の学校の生徒たちがオークランド動物園を訪れ、動物や環境について学べるよう、コンテストを通して活動費を提供しています。コンテストで、生徒たちは、自身の通学区における保護活動の課題を明らかにし、働きかけ、地域社会に違いをもたらす一助となるような素晴らしい解決策を考え出すよう求められました。

2021年度は、新型コロナウィルス感染症の影響でプロジェクト内容を少し変更し、選ばれた3校が、同動物園を訪問しました。

* オークランド動物園は、ニュージーランドと世界中の野生動物の保護と未来を築くことに焦点を置いている非営利の野生動物保護団体です。
年間500,000名以上の来場者があるオークランド動物園は、世界で最も先進的な動物園として高い評価を得ています。
https://www.aucklandzoo.co.nz/（英語ページのみ）

数字で見る実績

継続年数：**10** 年

提供車両数：**3** 台

安全にドライブを楽しんでいただくために

シートベルト着用啓発

【日本】マツダ（株）

交通事故による死亡・重傷者ゼロを目指して

マツダは、交通事故で死傷される方の多くが、シートベルト非着用、またはチャイルドシートを適切に使用していないという実態を受け、JAF広島、広島市および関連施設の皆さまと共に、シートベルトの着用促進を目的としたイベントを継続的に開催しています。

2021年度は、4月に広島県福山市みろくの里で開催された「交通安全イベント in みろくの里」と、年度末の3月に、広島市ヌマジ交通ミュージアムで開催された「交通安全チャレンジフェスタ」へ参加しました。

ミニカーを用いた衝突実験、お子さま対象の安全啓発クイズ、実際のシートベルト着用体験などを通し、来場者にシートベルト・チャイルドシート着用の大切さ、正しい着用の仕方などをお伝えしました。

会場では「今日から嫌がらずにチャイルドシートに乗ってね」「お父さん、ちゃんとした方法でシートベルトしてね」などと声をかけあう家族連れの姿が見受けられました。

数字で見る実績

イベント開催の継続年数

みろくの里：**4** 年

ヌマジ交通ミュージアム：**1** 年

事故の無い社会の実現を願って

交通安全啓発

【日本】マツダ（株）、東海マツダ販売（株）、（株）函館マツダ、マツダオートザム梅林 他販売会社

地元の警察と連携し、交通安全促進

マツダと販売会社は、自動車を製造・販売する企業としての責任を果たすため、交通安全啓発を行い、交通事故の減少を目指しています。

マツダは、広島県内の小・中・高の児童・生徒に対し、安全技術開発に携わる従業員による、職業講話の機会を通じて交通安全啓発を行いました。

東海マツダ販売では、店舗周辺で交通安全立哨活動を行っており、愛知県警察本部、瑞穂警察署より感謝状が授与されました。

マツダオートザム梅林では、交通安全週間などに合わせ、地元の警察署とも連携し、カーブミラーの清掃・点検を定期的に実施しています。カーブミラーの視認性、破損などの状況を管轄警察署に届け出ることで、通行車両の交通事故防止を目指しています。

函館マツダでは、秋の交通安全運動の一環として、函館西安全運転管理者協会・函館西警察署主催による「特装車両パレード」に参加し交通安全啓発を行いました。

数字で見る実績

継続年数：東海マツダ販売 **22** 年
マツダオートザム梅林 **2** 年
函館マツダ **12** 年

マツダのモノづくりを学ぼう

工場見学

【日本】マツダ（株）

オンラインで見学が可能に

マツダは、社会科学習の授業で日本の自動車産業を学ぶ小学校5年生に、マツダのモノづくりを紹介しています。

本社のある広島では、毎年約600校の学校団体を対象としたマツダミュージアム（工場）見学を実施しています。2021年度はコロナの影響により実際の見学ができなかったため、オンラインでの見学会や、双方向での参加型授業を実施しました。そのほか、県外から修学旅行で来られた高校生に対しても、実際の生産ラインの見学会を実施するなど、学校の学習カリキュラムに合わせてマツダのモノづくりを紹介しています。

また防府工場（山口県）でも、1982年の操業以来、工場見学の受け入れを実施しています。2021年度は、コロナの影響によりオンラインで実施、43校に約90分間の授業を行いました。

数字で見る実績

継続年数：**28** 年（広島）**40** 年（防府）

新たな価値を創造する人材育成

共創ゼミ

【日本】マツダ（株）

世界に誇れるモノづくりを

新たなモノづくりと新たな時代を形成し得る人材を育成し、広島が世界に誇れるモノづくりの地となることを目指し、2017年5月マツダのデザイン部門と広島市立大学芸術学部との協働による、共創ゼミを開設しました。これは、ひろしま自動車産学官連携推進会議[*1]の「2030年産学官連携ビジョン」である、「広島を自動車に関する独創的技術と文化を追い求める人々が集まり、世界を驚かせる技術と文化が持続的に生み出される聖地にする」に基づき取り組みを開始したものです。

2021年度は「弥山霊火堂 消えずの火 灯火台デザイン」[*2]をテーマに製作に取り組みました。1,200年の間、途絶えることなく人々を見守り、その未来を照らした「消えずの火」。コロナ禍の今、人々を照らす希望になって欲しいという、コロナ禍で学ぶことが困難な学生への想いがテーマには込められています。

*1 https://www.hirojiren.org/hirojiren/

*2 日本三景安芸の宮島にある消えずの火。地域のものづくり企業の有志が集まって発足した「消えずの火 ものづくり分科会」において、マツダはデザイン部門が灯火台の製作と全体のデザインコーディネートを担当したことからゼミのテーマとしても設定。

完成後マツダのデザインスタジオで関係者にお披露目会を実施し、その後宮島の大聖院で展示が行われました。

これからもマツダはモノづくりの精神を真摯に考え、広島発の新たな価値（モノ）を社会に提供する創造力と知識、技術を修得した人材の育成に貢献していきます。

数字で見る実績

継続年数：5 年

将来に向けてはたらくを描こう

就業支援

【日本】マツダ（株）、東海マツダ販売（株）、他販売会社、グループ会社
【タイ】オートアライアンス（タイランド）Co., Ltd.（AAT）

将来の進路選択を広げよう

AATは、1998年から大学と連携し、教育省の学業プログラムに沿ったインターンシップを提供しています。タイの発展に貢献する優秀な学生の輩出を目指し、働くことを経験しながら、有益な知識を得る事を目的としています。この活動は大学や関係機関から好評を得ており、継続的に支援をしています。

日本のグループ会社や販売会社では、クルマに興味を持ち、将来の職業選択の幅を広げてもらうことを目的に、小学生から高校生に向けた職場体験を実施しています。東海マツダ販売では、座学を中心にマツダの取り組み、販売会社の事業内容を紹介し、ショールームと整備工場の見学、マツダ車の見取りを行いました。整備工場では、使用工具に触れたり、軽作業や洗車を体験したりしていただきました。

マツダでは、地域の中学生や高校生を中心に職業講話を行っています。2021年度は、13校へ実施し、広島で働く事の魅力や、業務内容を説明し、働く事への興味・関心を広げる取り組み行いました。

数字で見る実績
継続年数：AAT **25** 年
東海マツダ **7** 年
マツダ **27** 年

学びを将来に活かすために

子どもたちへの学習支援

【日本】マツダ（株）
【メキシコ】マツダデメヒコビークルオペレーション（MMVO）
【南アフリカ】マツダサザンアフリカ（Pty）Ltd.（MSA）、マツダ財団南アフリカ（MFSA）
【アメリカ】マツダトヨタマニュファクチャリング USA, Inc.（MTMUS）

自動車のモノづくりだけでなく環境、歴史もテーマに

マツダでは、小学校、中学校、高校、大学からのご要望に応じた学習支援や、自動車を中心としたさまざまな分野の科学技術やものづくりに興味を持ってもらう体験型学習支援を行っています。

小学校には、リニューアル休館中だったマツダミュージアムからお届けするオンライン社会科見学や、各専門領域のエンジニアたちが環境にやさしい技術を伝える授業など近隣の計19校を対象に実施しました。

中学校・高校には、SDGsに関連した持続可能な社会における、エネルギー問題・交通環境問題や、カーボンニュートラル実現に向けた自動車の技術開発をテーマとした探究学習を計8校に実施しました。

大学には、「100年に一度の大変革期とこれからのものづくり」をテーマに、ものづくりの歴史について授業を行いました。

体験型学習としては、自動車技術会主催の小学生向け夏休みイベント「キッズエンジニア」に毎年参加しています。2021年度は、塗装技術に関する体験型プログラム（環境にやさしい塗装のひみつ）を小学生64名にオンラインで提供しました。また、同一プログラムを地域の公民館にて対面で実施し、17名の小学生に塗装パネルを見比べていただくなど、体験型の学習機会を提供しました。

様々な形で学びを支援

MMVOは、COVID-19の影響によりオンラインで学習を強いられたグアナファト日本語学校の生徒30名にPCを寄贈しました。

MSAは、2017年から1台クルマを販売するごとに40ランド（日本円に換算すると約320円）をマツダ財団南アフリカ（MFSA）*へ寄付しています。2021年度は、MSAとMFSAが協働して学校教育を支援する慈善団体へ寄付を行い、同団体が運営する小学校にコンテナ型の教室が寄贈されました。MFSAは、MSAから青少年や子どもたちへの教育支援を委任されており、今後も引き続き、開発途上あるいは資金不足の地域で優れた成果を出している組織と連携し、活動してまいります。

* https://www.mazda.co.za/mazda-foundation/foundation/（英語ページのみ）

MTMUSは、Calhoun基金への協賛を通じて、MTMUSや他の企業の保全部門での雇用につながる、製造技能習得プログラム「FAME」* で学ぶ学生を奨学金の面からサポートしています。MTMUSはこれまでに13人の卒業生を採用し、22人の学生が現在このプログラムに登録しています。

* https://calhoun.edu/?s=FAME（英語ページのみ）

数字で見る実績

継続年数：MMVO **1** 年
MSA **5** 年
MTMUS **2** 年

可能性を広げて未来につなげる

マツダスペシャリストバンク

【日本】マツダ（株）

トーチのお披露目会で広がる笑顔

マツダは、専門的な知識・技術・技能や長年培ってきた特技や趣味などを持つマツダグループ企業の従業員・OBが登録する人材バンクを設立し、地域の皆さまからの様々な要請に応えて派遣しています。1994年の設立以来、学校での講演や地域イベントでの芸能実演、スポーツ指導など、多彩なジャンルで地域への人的貢献を果たしています。

派遣形態は、自動車製造業における自業務に関連した内容をテーマとする「業務派遣」と、従業員各人の特技や趣味を活かした内容をテーマとする「プライベート派遣」の2種類があります。

そのうち「業務派遣」で行っている学校への講師派遣は、活動を通じて、地域のニーズにマッチしながらも、従業員の人材の成長にもつなげられるという、Win-Winの仕組みを構築していることが評価され、2018年度に第12回キッズデザイン賞*を受賞しました。

* https://kidsdesignaward.jp/docs/2018/KDawards20180824.pdf

2021年度の業務派遣では、リニューアル休館中のマツダミュージアムのスタッフや社内従業員と一緒に、小学生を対象とした社会科学習支援としてオンライン授業を行いました。

プライベート派遣では、2018年西日本豪雨の被災地からの依頼で、2020東京オリンピックの聖火ランナーを務めた従業員がトーチのお披露目会を企画、被災地支援ボランティアメンバーと共に仮設住宅や高齢者施設を訪れ、約200名の皆さまと笑顔で交流することができました。

数字で見る実績

継続年数：**28** 年

2021 年度派遣件数：**48** 件 **261** 名

累計派遣件数：**3,256** 件

防火・防災行事を支援

パレードカーの提供

【日本】マツダ（株）

地域イベントへの協力

マツダは、東京消防庁による新春恒例の防火・防災行事「東京消防出初式」に、2016年より毎年パレードカーを提供しています。このイベントは、消防車両分列行進、消防演技、音楽隊とカラーガーズ隊による演奏演技、江戸消防記念会による木遣り、はしご乗りなどを披露する新春恒例の防火・防災行事として多くの方々に親しまれています。

2020年度は、コロナ禍のため、初めて無観客での開催となりましたが、2021年度は、同庁職員ら約2,100名が参加し、事前応募した約800名の観客の方のご来場の下、開催されました。マツダは赤と白の2台のオープンカーを提供し、都知事や消防総監が同乗される先頭車両として活用頂きました。活動の様子はYouTube東京消防庁公式チャンネルでライブ配信されたほか、全国ニュースでも各局で放送され防災意識向上の支援に役立てられました。

数字で見る実績

継続年数：**7** 年

ストップ廃棄！必ず誰かの役に立つ備蓄品

災害用備蓄食品の寄贈

【日本】マツダ（株）

NPO団体へアルファ米を寄贈

マツダは、会社で備蓄している災害用備蓄食品のうち、更新の時期にある食品を保管期間に余裕を持って、近隣の社会福祉協議会やNPO法人、学校団体などに寄贈しました。

これは、備蓄食品を管理している社員が、社会に役立てることはできないかと考え、食品ロス削減の観点やコロナ禍において支援が必要とされている方への支援を目的として、また、地域の皆さまの防災意識の高まりを受け、寄贈したものです。

東京本社では、2021年12月と2022年1月に、農林水産省が推進しているフードロス対策として同省ホームページに登録されている食品受け入れを希望するフードバンク団体の中から、子どもを地域で見守り育てるために設立された団体に約1,400食分のアルファ米を寄贈しました。寄贈先からは、「ひとり親家庭や子ども食堂などを中心に活用します」などのお声をいただきました。

本社（広島）では、寄贈先を検討している中、地元の大学が感染拡大で帰省を自粛している下宿生を対象に、食材などの生活応援パックの送付を検討されていることを知り、必要とされている大学に寄贈しました。寄贈先からは、「アルバイトの収入も減りとても助かった。久しぶりにお菓子を食べ、精神的に満たされた」「初めて一人で年末年始を過ごした。外出自粛が続き、思った以上にストレスのたまる日々だが、多くの人に支えられていることに感謝し、より一層勉学に励みます」などのお声をいただきました。その他、近隣の社会福祉協議会やNPO法人でもご活用いただくなど、合計約60,000食分のアルファ米やパン類及び12,000袋のビスケット類などを寄贈しました。

防府工場では、教育委員会を経由して近隣の小・中学校の児童・生徒の防災訓練用として、また、地域のフードバンクに合計約14,600食分のアルファ米やパン類及び3,120袋のビスケットなどを寄贈しました。

数字で見る実績

継続年数：**1** 年

大切な命を未来に繋げていくために

マツダ病院

【日本】マツダ（株）

看護の出前授業

マツダ病院は　「温かい思いやりの心で、医療を通じて、社会に貢献します」をスローガンに広島市東部地区を中心とする地域の中核病院として、近隣医療機関との連携を図り、地域貢献に取り組んでいます。

また2015年より、看護師の仕事や災害支援ナースの役割などの学習を通して、命の大切さを学び、医療職に興味を持っていただくことを目的とした看護師による出前授業を、広島県看護協会と連携し実施しています。

HP：https://hospital.mazda.co.jp/

2021年度は、「大切な命を未来に繋げていくために」をテーマとして、地域の中学校において、1年生を対象に出前授業を行いました。骨粗しょう症マネージャーの資格を持つ看護師が看護師になる方法や仕事内容の紹介など、職業講話を行うほか、「骨の貯金」などのお話をし、骨粗しょう症の予防啓発を行いました。講話の他にも脈拍の測定体験や、アルコール消毒を用いた手指衛生体験などを実施しました。

また、地域の公民館などにおいて一般の方を対象とした公開医療講座を実施し、管理栄養士が肝臓病予防や食事療法のお話をするなど、地域住民の健康を守るための活動も行っています。

数字で見る実績

継続年数：**7** 年

マツダ病院開院年数：**84** 年

福祉作業所の「はたらく」を支援

ウエス加工用布類の収集

【日本】マツダ（株）、グループ会社

環境に優しい資源サイクル

マツダとグループ会社は、2021年12月、広島市内福祉作業所の事業の一つである「ウエス[*1]加工」を支援するため、本社（広島）構内で衣類などを収集し、作業所に提供しました。

この活動は、作業所より「ウエスの加工に必要な布類が、新型コロナ感染症拡大の影響で、平時より更に衣類などが集まりにくい」との声を聞き、2020年6月より収集を開始したものです。構内入退場門に収集箱を設置し集荷を行い、提供時には作業所の皆さんと協力しトラックへの積み込み作業を行いました。

作業所からは「マツダグループの皆さんとのつながりを感じることができた」「布類がたくさん集まって嬉しい」「今後も連携した収集活動を続けていきたい」といった声が寄せられました。

一連の作業を通じ、作業所の「はたらく」を支援するだけでなく、従業員のもとで役割を終えた衣類などが、作業所の皆さんの手でウエスに生まれ変わり、新たな役割を担うという好循環も生んでいます。

*1　機械類の油、不純物などを拭き取りきれいにするために用いる布のこと

*2　50～60㎝四方のウエス1枚が、1kgで約12枚加工できると仮定した場合

数字で見る実績

累計提供重量：約**772**kg（約9,260枚[*2]）

2021年度提供重量：約**184**kg（約2,200枚[*2]）

継続年数：**2**年

美しい街をみんなの手で

地域清掃活動

【日本】マツダ（株）、グループ会社、（株）神戸マツダ 他販売会社

ビブスを寄贈し活動を支援

マツダ、グループ会社、全国の販売会社では、定期的に会社周辺の清掃や雑草除去など、美化活動に取り組んでいます。

神戸マツダでは、障害福祉サービス（生活介護）介護保険サービス（共生型通所介護）を提供する「自立センターひょうご」を利用している知的障がい者の方と共に、月に1回駅前広場の美化に取り組んでいます。2021年度は、活動を支援するためのビブスを寄贈するとともに、従業員24名が活動に参加しました。

マツダ本社（広島）では、休憩時間などを利用して定期的に工場・事業所周辺の清掃に取り組むほか、行政が主催するクリーンキャンペーンへ参加しています。

数字で見る実績

継続年数：**5** 年（神戸マツダ）

心を一つに人道支援

ウクライナへの支援

【日本】マツダ（株）、グループ会社、販売会社
【欧州】マツダモーターヨーロッパGmbH（MME）、マツダモーターイタリア, S.r.l.（MMI）、他各国拠点

平和への願いを込めて

マツダでは、2022年2月に発生したウクライナにおける軍事行動により極めて厳しい環境におかれている人々の安全について深く憂慮し、ウクライナへの人道的支援を行いました。

2022年3月に国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）を通じて、合計100万ユーロの寄付を実施しました。UNHCRからは、寄付に対する感謝状を贈呈いただくとともに、ウクライナや難民支援の実情についてあらためて考える機会をいただきました。

また、2022年3月から4月にかけて、国内外のマツダグループ従業員による募金活動『ワンマツダウクライナ人道支援募金』を実施し、合計約800万円を集めました。集まった募金は、UNHCR並びにマツダモーターヨーロッパGmbHやマツダモーターポーランドをはじめとする現地法人の従業員がボランティアで行っている欧州での難民支援などの草の根活動を行っている団体へも寄付しました。これらは、ポーランドやキーウなど支援ニーズや被害の大きい地域で、現地の販売会社などとの協力のもと、食料、衛生用品、医療用品、バッテリー、毛布などの提供に充てられています。

欧州内の拠点でも、自発的な支援活動が展開されました。MMIでは、任意の非営利団体City Angels[*1]に3台のCX-5を提供し、ウクライナの人々に食料と医薬品を届けられた他、避難してきたウクライナの女性とその子どもたちの移動手段として使用されました。また、MMIの従業員も、必要な薬を購入し、協会を通じて寄付する活動を行いました。

“ヨーロッパの友へ”とのメッセージを添えた匿名の振り込みや、長期間貯め続けた大きな貯金箱を丸ごと寄付してくれた従業員など、ウクライナの地への距離にかかわらず、従業員がそれぞれのやり方で、平和への願いを込めて取り組むグローバルな支援活動となりました。

*1 https://cityangels.it/（英語ページのみ）

数字で見る実績
継続年数：**1** 年

お客さまのご協力による寄付活動

アンケートを通した支援

【日本】マツダ（株）、販売会社

マツダ国内販売店[*1]では、お車を購入されたお客さま[*2]、または整備・点検などを受けられたお客さま[*2]に、販売店の対応・サービスに対するご意見・ご要望をお聞きする「お客様の声をお聞かせください」アンケート[*3]をウェブにて実施しています。

このウェブアンケートにお答えいただくと、対象期間中のご回答1件につき50円をマツダが、社会貢献活動を行っている公益団体の支援のため寄付を行います。

2021年度は、赤い羽根「新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン」と、「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」へ寄付を行いました。

2021年度の支援先活動報告

赤い羽根 ポスト・コロナ（新型感染症）社会に向けた福祉活動応援キャンペーン

新型コロナウイルス感染症拡大の長期化により、経済的に困窮する人や社会的に孤立する人の増加や固定化が大きな社会課題となっています。誰もが孤立や生きづらさを感じている人の存在に気づき、支え合い、つながり続ける地域・社会の実現をめざし、中央共同募金会では「新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン」を2020年度から実施しました。

2021年度は「新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン」として、子どもや家族の支援、フードバンク活動、様々な形で居場所を失った人への緊急支援などの助成を展開しました。

災害ボランティア活動サポート募金（ボラサポ）

赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」は、中央共同募金会が2011年に創設した「ボラサポ」にて活動する災害ボランティアやNPOを支援する募金活動です。2021年度は、令和3年7月豪雨災害、8月豪雨災害、令和4年3月福島県沖地震の災害を特定した寄付募集を行い、被災地において支援活動を展開する団体への助成を実施しました。

寄付実績

寄付実施時期	アンケート回答件数	金額（円）	寄付先	備考
2021年7月（2020年度分）	348,264	17,413,200	社会福祉法人中央共同募金会（赤い羽根「新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン」）*4	10,000,000円
			社会福祉法人中央共同募金会（赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」）*5	7,413,200円
2020年9月（2019年度分）	317,120	15,856,000	日本NPOセンター（東日本大震災現地NPO応援基金）*6	3,000,000円
			日本NPOセンター（高齢者・障がいのある方などの移動を支援するNPO団体への寄付）*7	6,400,000円
			社会福祉法人中央共同募金会（支える人を支えよう！赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン）*8	6,456,000円
2019年5月（2018年度分）	344,373	17,218,650	日本NPOセンター（東日本大震災現地NPO応援基金）*6	9,000,000円
			日本NPOセンター（高齢者・障がいのある方などの移動を支援するNPO団体への寄付）*9	8,218,650円
2018年5月（2017年度分）	286,931	14,346,550	日本NPOセンター（東日本大震災現地NPO応援基金）*6	9,346,550円
			日本NPOセンター（高齢者・障がいのある方などの移動を支援するNPO団体への寄付）*10	5,000,000円
2017年6月（2016年度分）	220,757	11,037,850	日本NPOセンター（東日本大震災現地NPO応援基金）*6	7,037,850円
			日本NPOセンター（高齢者・障がいのある方などの移動を支援するNPO団体への寄付）*11	4,000,000円
2016年5月（2015年度分）	185,454	9,272,700	日本NPOセンター（東日本大震災現地NPO応援基金）*6	
2015年5月（2014年度分）	150,787	7,539,350	日本NPOセンター（東日本大震災現地NPO応援基金）*6	
2014年4月（2013年度分）	131,593	6,579,650	日本NPOセンター（東日本大震災現地NPO応援基金）*6	
2013年4月（2012年度分）	82,349	4,117,450	あしなが育英会遺児ケア「レインボーハウス」建設*12	
2012年4月（2011年度分）*13	40,340	2,017,000	あしなが育英会遺児ケア「レインボーハウス」建設	
合計	**2,507,018**	**125,350,900**		

*1 一部の販売店では、このウェブアンケートを実施していない場合がございます。詳しくはご利用いただいた販売店へお問い合わせください。
*2 期間中にご来店され、新車・中古車を購入された、または、整備・点検サービスを受けられたお客さまの中で、販売店よりアンケートをお願いさせていただいたお客さま。
*3 対象のお客さまには専用ウェブサイトおよびパスワードを各販売店にてご案内いたします。パソコンまたは携帯電話、スマートフォンより専用ウェブサイトにアクセスいただき、アンケート設問に最後までご回答いただいた件数を有効件数として扱わせていただきます。
*4 https://www.akaihane.or.jp/camp-covid19-2021/
*5 https://www.akaihane.or.jp/saigai/#01
*6 https://www.jnpoc.ne.jp/?tag=311jisin-fund
*7 https://www.jnpoc.ne.jp/?p=21332
*8 https://www.akaihane.or.jp/camp-covid19/
*9 https://www.jnpoc.ne.jp/?p=18483
*10 https://www.jnpoc.ne.jp/?p=16713
*11 https://www.jnpoc.ne.jp/?p=13353
*12 あしなが育英会では、東北レインボーハウス建設募金への寄付金額が目標額に達したため、2014年3月をもって、寄付の受付は終了された（1年半継続、総額6,134,450円寄付）。
*13 2011年8月～2012年3月

必要とされる方のもとへ届けよう

フードドライブ

【日本】（株）南九州マツダ、（株）千葉マツダ、（株）アンフィニ広島、マツダオートザム市原北

フードロスを防ぎ地域に貢献

販売会社では、家庭でまだ食べられるにも関わらず眠っている食材などを、必要としている方に無償でお渡しするフードドライブを実施しています。この活動では、フードロスを防ぎ地域に貢献すると共に、お客さま・社員・会社が一体となって自主的に参加する活動を通して「つながり」を深めることを目的としています。

千葉マツダでは1年に2回、マツダ部品千葉販売やマツダの従業員と協力し、計29拠点から1,107点の食品を「フードバンクちば」へ寄贈しました。

マツダオートザム市原北では12月～5月にかけて店舗に回収ボックスを設置し、来店されたお客さまから寄付していただいた食品を、定期的に「フードバンクちば」へ寄贈しています。

南九州マツダでは、備蓄食料品を販売拠点である鹿児島・熊本・宮崎のそれぞれのフードバンク団体に寄付しています。寄付した食品は主にひとり親世帯や子どもへの支援に活用されます。

アンフィニ広島では1月と2月に賞味期限間近の食品などを店舗で集め、地域の子ども食堂や大人食堂などで活用されました。

参加した人からは「この活動を通して日頃驚くほどの食品を無駄にして廃棄していることが分かった。今後は食品ロスを減らす工夫についても考えたい」などの感想が寄せられました。

家庭内で眠っている食品を無駄にすることなく気軽に寄付する事ができることに加え、車とは違う形でお客さまとのつながりを感じる活動として、今後も継続していく予定です。

数字で見る実績

継続年数：千葉マツダ **2** 年
マツダオートザム市原北 **16** 年
南九州マツダ **1** 年
アンフィニ広島 **1** 年

スポーツと文化で地域を活性化

スポーツ・文化の支援

【日本】マツダ（株）、（株）甲信マツダ、（株）広島マツダ 他販売会社
【メキシコ】マツダデメヒコビークルオペレーション（MMVO）
【オーストラリア】マツダオーストラリアPty. Ltd.（MA）
【タイ】マツダセールス（タイランド）Co., Ltd.（MST）

選手が子どもたちへ指導

マツダや国内の販売会社、海外の販売統括会社では、地域のスポーツおよび文化振興に寄与することを目的に、地元のスポーツチームや選手、交響楽団などの支援を行っています。

本社（広島）では、サンフレッチェ広島、広島東洋カープ、広島交響楽団をはじめとする様々な団体へ協賛などを行っています。2020年からは、プロバスケットチーム「広島ドラゴンフライズ」を、マツダはオフィシャルパートナーとして、広島マツダはダイヤモンドパートナーとして、それぞれ支援しています。

また、選手自身もスポーツの支援を行っています。2021年度、マツダを母体とした社会人ラグビーチーム「マツダスカイアクティブズ広島」は、行政からの要請を受け、近隣の小・中学生チーム向けに、練習場所となるグランドの開放と、ラグビー教室を開催しています。

甲信マツダは、2013年から長野県のプロ野球チーム「信濃グランセローズ」の球団スタッフ移動用の車両を貸与するなど、球団運営を支援しています。2018年からは、「ボアルース長野フットサルクラブ」を、ホームゲームのアリーナスポンサーとして、2019年からは、地元アスリートへの車両貸与サポートを通じ、支援を行っています。

MAは、オーストラリア・フットボールリーグ（AFL）の名門クラブ、「ノース・メルボルン・フットボール・クラブ」（NMFC）の主要スポンサーとして23年間にわたり支援しています。2018年からは、加えてAFLW（AFLウィメンズ）で新たに結成されたフットボールクラブ「ノース・メルボルン・タスマニアン・カンガルーズ」（NMTK）への支援も行っています。

MSTは、ナショナルサッカークラブ「SWATCAT ナコンラチャシマーMAZDA FC」の公式スポンサーとして、移動用の車両を貸与するなど10年間支援を継続しています。サッカーの国際レベルへの引き上げや、地域経済発展のために貢献したいと考えています。

https://www.mazda.co.th/news-and-events/30-aug-2021-mazda-swatcat-press-conference2021/

数字で見る実績

継続年数：

広島ドラゴンフライズ **2** 年

マツダスカイアクティブズ広島 **2** 年

信濃グランセローズ **9** 年

ボアルース長野フットサルクラブ **4** 年

オーストラリア NMFC **23** 年、NMTK **4** 年

SWATCAT
ナコンラチャシマー MAZDA FC **10** 年

展覧会支援による文化振興

MAは、世界で有名な芸術作品が地域の人々にとって身近なものになるよう、1994年より美術展開催などの支援を行っています。2021年度は「ボッティチェリからゴッホへ ロンドンのナショナル ギャラリーの傑作」と題して5月から6月にかけて開催された展覧会の主要スポンサーとして、支援しました。この展覧会は、ロンドンのナショナル・ギャラリーが国際ツアーのために初めて作品を国外に持ち出すことが許可されたもので、MAはその展覧会の重要な推進力となりました。

MMVOは、イラプアト市の文化研究所に寄付を行い、地元出身の画家ハビエル・バスケス氏（別名 Jazzamoart *）の70歳の誕生日を記念して開催された絵画展「Jazzamoartの70年」を支援しました。これは、地元のアーティストの支援と、地元の人々の間で文化を広める活動につながっています。

* https://jazzamoart.com/（英語ページのみ）

数字で見る実績

継続年数：MA **28** 年、MMVO **1** 年

繋がる平和の祈り

折り鶴プロジェクト

【日本】マツダ（株）
【カナダ】マツダカナダ, Inc.（MCI）
【メキシコ】マツダデメヒコビークルオペレーション（MMVO）
【欧州】マツダモーターロジスティクスヨーロッパN.V.（MLE）
【南アフリカ】マツダサザンアフリカ（Pty）Ltd.（MSA）
【オーストラリア】マツダオーストラリアPty. Ltd.（MA）
【ニュージーランド】マツダモータースオブニュージーランドLtd.（MMNZ）
【コロンビア】マツダデコロンビアS.A.S.（MCOL）
【タイ】マツダセールス（タイランド）Co., Ltd.（MST）
【台湾】台湾マツダ汽車股份有限公司（MMT）

広島とマツダの深い繋がり

マツダは、国内外から収集した千羽鶴を広島市にある平和記念公園の「原爆の子の像」に奉納しています。

この活動は、新型コロナウィルス感染症拡大の影響を受け広島への観光客や修学旅行生が激減し、寄せられる折り鶴が大幅に減っていることから、広島市まちづくり市民交流プラザより「折り鶴を捧げる取り組み」への協力依頼があり、お役に立ちたいと考え始まったものです。

「地元に貢献しつつ、グローバルのマツダチームが一体感をもって広島を起源とした企業であることを再認識する」ことを目的に、世界各国の販売統括会社に呼びかけ、お客さまにもご協力いただきグローバルで合計80,000羽の折り鶴を広島市に寄付しました。

MMTでは、ディーラーのセールス・サービス教育の一環で、広島の歴史を学ぶ機会として折り鶴を折る活動を実施し来場されたお客さまと計2,000羽の折り鶴を作成しました。

MCOLでは、WEB上で国旗の色をあしらったオリジナル柄の折り紙をダウンロードできるようにし、お客さまやジャーナリストの皆さまにもご協力いただき、計3,000羽の折り鶴を作成しました。

MMNZは、2万ドルを上限に、一般市民から折り鶴1000羽を寄贈いただくごとに、1000ドルを難病と闘う子どもが持つ夢の実現の手伝いを目的とするボランティア団体へ寄付しました。

たくさんの折り鶴はマツダ本社（広島）に送られ、千羽鶴へ仕立てるため社会福祉法人きつつき第3作業所 * に糸通しを依頼し、マツダに納品されたあと、8月6日の平和記念式典に合わせ奉納しました。

折り鶴作成に参加した方からは「この美しい地球から全ての争いや憎しみが消え、皆さまが健康と平和で、本当の意味で笑顔溢れる未来を迎えることができるよう心から願っております」「自分が作った折り鶴が平和公園に飾られることで、人々に喜びを与え、平和公園をカラフルに彩ることができて嬉しい」といった声が多く聞かれました。

世界各国がこの活動の意味や価値を深く理解・共感し、活動の輪が広がりました。

* 社会福祉法人交響の作業所の1つ。障害を持つ方々の生活支援、地域での生活の場づくりのための就労施設。

数字で見る実績

継続年数：**2** 年

ドライブを通じて子どもたちに笑顔を

サンタプロジェクトの支援

【日本】マツダ（株）、（株）マツダE&T
【コロンビア】マツダデコロンビアS.A.S.（MCOL）

MCOLでは、路上生活を強いられている子どもの保護活動を行うNGOと連携し、サンタプロジェクトを実施しています。2021年度は、44名の子どもたちと従業員が、クリスマスの装飾を施したマツダ車に乗り映画館までドライブし、映画鑑賞を楽しんだ後、子どもたちへプレゼントを贈りました。

マツダとマツダE&Tは、ロードスタークラブオブジャパン（RCOJ）* が主体となる、ひとり親家庭の親子向けサンタドライブ（横浜・広島）の運営をサポートしています。マツダからもサンタクロースやトナカイに扮した役員や従業員が参加しました。

2021年度横浜では、「子どもたちと街に笑顔を。」をテーマに約160名の参加者とドライバー含む約60名のスタッフが40台のオープンカー（ロードスター）に乗り、横浜の観光地を交代でドライブしました。

RCOJからは、「子どもたち含め皆が笑顔になる素晴らしいイベントでした。来年もたくさんのサンタクロースの皆さんに参加いただくことを楽しみにしています」と、コメントが寄せられました。

RCOJは、サンタドライブの活動資金を捻出するため、横浜と広島において、チャリティーフリーマーケットを開催しています。

マツダは、場所の提供とマツダグッズを販売し、収益金を全額運営へ提供することで協力しています。マツダE&Tの社員も、運営を支援しています。

2021年度、マツダR&Dセンター横浜は、横浜市健康福祉局と連携しNPO法人和輪工房のコーヒーと社会福祉法人おおぐち工房のクッキーを販売しました。

* ユーノス、マツダロードスター愛好者によるファンクラブ
https://www.open-inc.co.jp/rcoj/

数字で見る実績

継続年数：**3** 年（コロンビア）
19 年（横浜）**4** 年（広島）

飲み物を買ったら寄付していた！

支援型自動販売機の設置

【日本】マツダパーツ（株）、マツダエース（株）、（株）神戸マツダ

売上の一部が寄付金に

マツダパーツ、マツダエース、神戸マツダでは、支援型自動販売機を設置し、売り上げの一部3～5%）を福祉団体などに寄付しています。

マツダパーツは、2016年の活動開始以来、交通遺児支援や原爆ドーム保存を目的とした自動販売機を設置し、売り上げの一部を（公財）交通遺児育英会、NPO法人はぁとスペース、広島市に寄付しています。2021年度は184,110円（8台分）を寄付し、交通遺児育英会の機関紙「君とつばさ」に、活動の紹介記事が掲載されました。

マツダエースは、2011年の活動開始以来、本社（広島）に「広島交響楽団」「サンフレッチェ広島」、などへの支援自動販売機を計3台、マツダ防府工場（山口県）に「赤い羽根共同募金」、子どもの貧困問題を支援する「こども明日花プロジェクト」への支援自動販売機を5台の合計8台を設置し、売り上げの一部を寄付しています。

販売会社の神戸マツダは、2008年から本社および店舗に「盲導犬」の支援型自販機を19台、2021年度からは、「青少年育成プロジェクト」の支援型自動販売機を32台設置し、売り上げの一部を寄付しています。

自動販売機にオリジナルラッピングを施すことで啓発効果も期待でき、気軽に取り組める活動として今後も継続していく予定です。

数字で見る実績

継続年数：マツダパーツ（株）**6**年
マツダエース（株）**12**年
（株）神戸マツダ **14**年

地域の笑顔も守りたい！

地域の見守り活動

【日本】マツダ（株）、マツダエース（株） 他グループ会社、他販売会社

セーフティ・ステーション、子ども110番の家設置

グループ会社や販売会社では、地域の皆さまの見守りを目的とした活動を行っています。

マツダエースでは、2020年11月にマツダ（本社）構内の9か所の警備所に「セーフティ・ステーション」「子ども110番の家」を設置しました。

登下校中の子どもたちの見守りや、女性や高齢者などすべての地域住民に対する一時保護、警察への通報を行うなどの取り組みを行っています。

「マツダを守る警備所」にくわえて「地域も見守る警備所」としても取り組んでいきます。

数字で見る実績

継続年数：マツダエース **2** 年

未来への希望を発信

ウォールアート

【日本】（株）広島マツダ

戦後100年の願いをHIROSHIMAに描き、希望へつなぐ

広島にゆかりがあり広く国内外で活躍するアーティスト9名によるウォールアートを制作するプロジェクト、WALL ART PROJECT "2045 NINE HOPES" が、広島市にある施設「おりづるタワー*」で実施されました。この活動は、戦後75年を迎えた今、未来へ向けて何が残せるか、という想いからスタートしたもので、戦後100年となる「2045年への願い」をテーマに、広島市立大学、広島女学院大学、TAMENTAI GALLERY、一般社団法人広島県観光連盟と広島マツダが連携し実施したものです。

広島マツダは、「企業が歩んできた歴史と広島で育ってきた人々の変遷が重なり“戦後100年への願い”としてアートが実現した。混沌とする世界情勢の今、地場企業だからこそ出来る、「平和」の新たなカタチをこの広島の地から発信していきたい」と考えています。

参加したアーティストからは、「分野の違う年齢幅の広い作家同士は出会う機会がないので、とても貴重な時間だった。自分の作品で平和を発信できる機会をもらえて本当に嬉しかった」などの感想が寄せられました。

* 広島マツダが運営する施設
https://www.orizurutower.jp/

収束を願って、できることから

新型コロナウイルス感染拡大に伴う支援活動

【アメリカ】マツダノースアメリカンオペレーションズ（MNAO）
【カナダ】マツダカナダ, Inc.（MCI）
【メキシコ】マツダデメヒコビークルオペレーション（MMVO）
【台湾】台湾マツダ汽車股份有限公司（MMT）
【タイ】マツダセールス（タイランド）Co., Ltd.（MST）
【タイ】オートアライアンス（タイランド）Co., Ltd.（AAT）

新型コロナウイルスにより、お亡くなりになられた方にお悔やみ申し上げますとともに、
体調を崩されている皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

地域の皆さまへの支援

タイのMSTは、全国の販売代理店と共同でシェアリングプロジェクト「マツダプンスク[*1]」を2020年度に引き続き実施しました。COVID-19パンデミックの影響を受けた地元の人々を支援するために、タイ全土のマツダショールームの前に「パンスクパントリー」を設置。これは、お客さまから提供いただいた生活必需品（米、インスタント食品、マスク、その他）を、必要とする地域の皆さまにご活用いただくというもので、多くの皆さまのご協力の下で実施することができました。

また、タイ赤十字社に医療用品を寄付した他、タマサート野戦病院にマツダBT-50を貸与し医療活動を支援しました。

*1　プンスクとは、幸せを分かち合うという意。

カナダのMCIは、COVID-19によるロックダウンの影響を受けた地元の中小企業をサポートする「ローカル レジェンド コーズ マーケティングキャンペーン」を販売会社とともに実施しました。支援先はMCIが選定した企業、一般から推薦された企業や地元の企業など200社以上を対象とし、寄付を通して事業継続を支援しました。

タイのAATは、WHA Corporation Public Company Limitedと共同で、イースタンシーボード工業団地（WHAグループ）で働く従業員向けに「AAT–COVID-19 ワクチン接種センター」を設置しました。運営をサポートするために、施設とスタッフを提供し、180を超える企業の従業員約2,000人が、AATでCOVID-19ワクチンの初回接種を受けました。

メキシコのMMVOは、州政府と協力してCOVID-19の接種センターを設置・運営し、MMVOやサプライヤーなど地域の企業の従業員や市民に対して3万回以上の接種を行いました。また、遠方に住むサラマンカ市民のために、1日往復の交通費を寄付しました。

アメリカのMNAOは、マツダ車だけでなく他メーカーのモデルも対象とした、学校の教師、コーチ、管理スタッフなどに向けて無料のオイル交換を行いました。

医療に従事する皆さまへの支援

台湾のMMTは、2021年7月に、「MAZDA Support You, Medical Protection」キャンペーンを実施し、マツダ車だけでなく他メーカーのモデルも対象とした、医療従事者向けにエンジンオイルの交換、車内の消毒や基本的な車両点検などのサービスを提供しました。また、台湾マツダの公式フェイスブックファンページでは、医療を応援する写真やメッセージを募集するキャンペーンを実施。わずか1週間で、数万人のファンが反応しました。台湾マツダは、集めた写真をビデオにして、公式ファンページで共有しました。

メキシコのMMVOは、JETROへの寄付を通じて、同国内でコロナウイルスと闘う医師の皆さんへ無料の弁当を提供しました。

これは、オールジャパン（在メキシコ日本国大使館、日系企業、日本食レストラン）で、メキシコおよび同国の医師の皆さんへの感謝の気持ちを伝える活動として行われたものです。

子どもの福祉向上を図る活動を支援

医療支援

【カナダ】マツダカナダ, Inc.（MCI）
【オーストラリア】マツダオーストラリアPty. Ltd.（MA）

MCIは、がんなどの病気の子どもたちを支援するスポーツイベント「Sporting Life 10K Run」に従業員とその家族や友人総勢32名が参加し、病気と闘う子どもたちが参加するサマーキャンプ資金の調達に協力しました。

このキャンプは、小児がんなどに侵された子どもたちに、チャレンジングで楽しく、実りの多い魅力的な体験を通じて成長する機会を提供しています。

MAは、地域医療への貢献と従業員の地域ボランティア参加を促進するため、毎年3〜4月に開催される王立小児病院のランニングイベント「ラン・フォー・ザ・キッズ」を支援しています。イベントを通じて集められた募金は、王立小児病院の重要な研究、施設、機器のために活用されます。

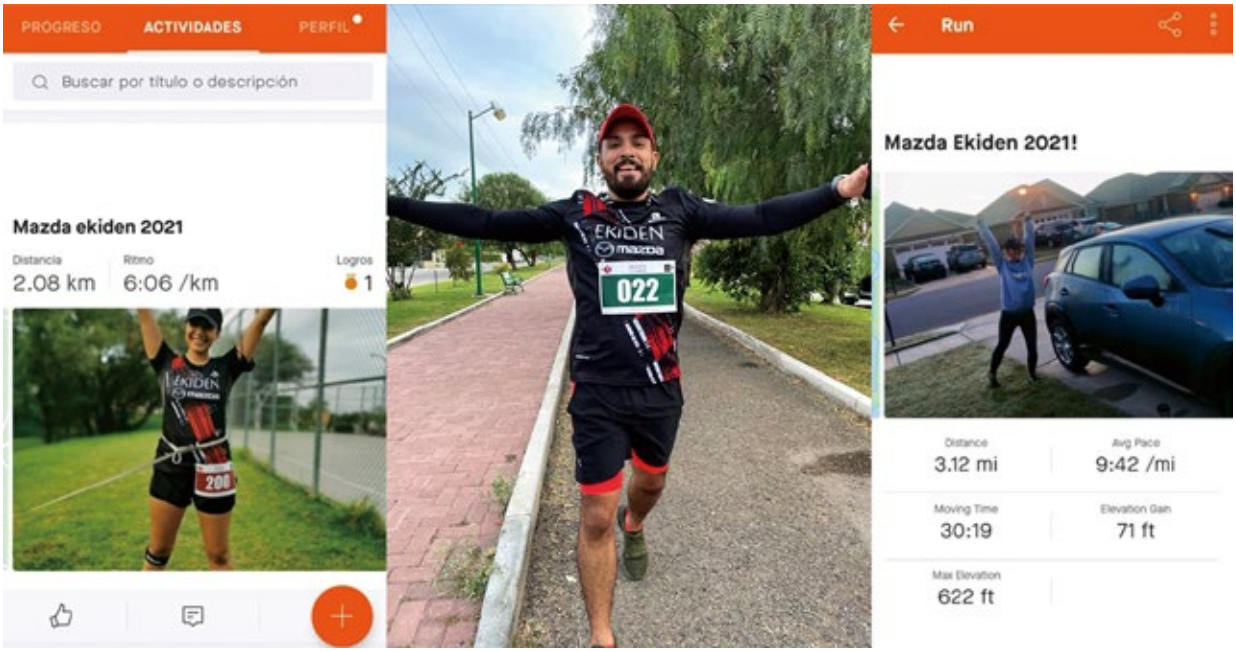
数字で見る実績

継続年数：MCI **8** 年、MA **15** 年

オンラインで同時開催！

マツダ駅伝大会の開催

【メキシコ】マツダデメヒコビークルオペレーション（MMVO）



日本の文化で地域交流

MMVOでは、2015年から工場の一部敷地を利用し、駅伝大会を開催しています。この活動は、日本の文化を地域へ紹介するとともに、従業員やその家族、地域の人々と充実した時間を過ごすことを目的としています。

2021年度は、コロナ禍により、前年度同様にオンラインで開催しました。レースへの登録は無料で、メキシコ国内のみならず、日本、アメリカ、カナダ、オーストラリアにも参加を促し、計611チーム、3,000人以上が参加し、各チーム5人のメンバーが合計15kmを完走しました。

参加者からは、「マツダが、駅伝コースとして敷地を開放して、地域でのスポーツ促進のきっかけを作ってくれたことに感謝している」「駅伝をきっかけに、自分や家族の健康について考え直すことができた」などの感想が寄せられました。

数字で見る実績

継続年数：**7**年

子どもたちへプレゼントを贈ろう

トイドライブ

【メキシコ】マツダデメヒコビークルオペレーション（MMVO）

従業員と会社からおもちゃを寄贈

MMVOでは2015年より従業員から寄贈されたおもちゃを社会的、経済的に不利な状況にある子どもたちへ寄付するキャンペーンを実施しています。メキシコではホリデーシーズンの最終日となる「東方三賢者の日」（1月6日）までに、プレゼントを受け取るための手紙を子ども達が書く風習があり、毎年この日に合わせて活動を実施し、従業員から寄せられたおもちゃを子どもたちへ寄付しています。

2021年度は、2つの市と連携し、小学生の子どもたちへ2,640個のおもちゃを寄付しました。市長からは、「あらゆる種類のおもちゃを受け取ったことで、子どもたちの期待に応えることができた。参加したすべての人に感謝しています」と、コメントが寄せられました。

数字で見る実績

継続年数：**7**年

少しでも快適な生活を

移民の支援

【メキシコ】マツダデメヒコビークルオペレーション（MMVO）

家庭用品を移民局に寄贈

MMVOは、移住者のシェルターで使用するために、75台の家庭用品を国立移民局に寄贈しました。

不安定な状況の中で移動、生活する移民への人道支援を目的として、メキシコで移民のための避難所の拡大に伴って不足していた調理器具を寄付しました。

数字で見る実績

継続年数：**1** 年

子どもたちの安全、健康を願って

学校での安全プロジェクト・HIV/AIDSケア施設の支援

【タイ】オートアライアンス（タイランド）Co., Ltd.（AAT）

寄付を通して学校や母子生活支援施設を援助

AATの職業安全健康委員会は、ボランティア活動を行うAATの「ホープクラブ」と協力して、「学校での安全プロジェクト」を推進しています。

2021年度は、コロナ禍により、例年実施する生徒との交流プログラムは行ことができませんでしたが、ラヨーン県、PluakdaengにあるBanmormui schoolに、温冷両機能を備えたウォーターサーバーと学用品を寄贈しました。

その他、HIV/AIDSとともに生きる子どもや女性への緩和ケアや、HIV陽性のティーンエイジャーのための家など、7つのプログラムを提供する施設「カミリアン・ソーシャル・センター・ラヨーン」に生活用品などの寄贈を行いました。

数字で見る実績

継続年数：**15** 年

発 行：マツダ株式会社　コーポレート業務本部　総務部
本社所在地：広島県安芸郡府中町新地3-1　〒730-8670
発行年月日：2023年1月